

『ISAF Nations Cup Regional Final Asia』 出場報告書



2015年4月30日

日本代表選抜チーム

市川 航平

中山 遼平

加藤 文弥

東野 竜弥

岡本 拓也

JSAF キールボート強化委員会

『ISAF Nations Cup Regional Final Asia』出場報告

月光ボーイズ・中山遼平

2015年4月22日(水)から26日(日)まで、バーレーン王国ザラクのバーレーンセーリングクラブで開催されたマッチレース国際対抗戦『ISAFネーションズカップ・アジア地区予選』に、月光ボーイズチームが日本代表として出場しましたので、以下の通りご報告します。

記

1. 日程

- 4月 22日(水)バーレーン国際空港到着、事前練習
- 23日(木)受付／体重測定、スキッパーズミーティング
ラウンドロビン1
- 24日(金)ラウンドロビン1～3
オープニングセレモニー
- 25日(土)強風によりレースキャンセル
- 26日(日)ラウンドロビン3(規定時刻によりファイナルはキャンセル)
アワードセレモニー、バーレーン国際空港出発

* レース期間中は毎日レース後にアンパイアとのデイブリーフィングが行われた。

2. 日本チームメンバー

日本チームは以下の5名(年齢、ポジション)で構成された。

- 市川航平(24、スキッパー)
- 中山遼平(26、トリマー)
- 加藤文弥(24、バウマン)
- 東野竜弥(24、セカンド)
- 岡本拓也(24、ミドル)

3. 出場国(スキッパー、ISAF マッチレースランキング)

- 日本(市川航平、66位)
- バーレーン1(Ebrahim Abdulla、96位)
- バーレーン2(Ebrahim Duaiy、1507位)
- マレーシア(Umi Wahida、—)

4. 競技艇

J/24 を使用し、競技艇のセールはメインセール、ジブセール、スピナーカー各 1 枚によって構成された。

5. レース運営

- ・ レース日程は、当初 24 日からレース開始予定であったが、後半日程が強風予報のためレースが実施できない可能性を考慮し、全チームの合意により急遽 23 日の午後からレースが行われた。初日に 3 フライト、2 日目は微風による待機後に 9 フライトを消化した。3 日は 30 ノットオーバーの強風のためレースはキャンセルとなり、最終日も 25 ノットオーバーの強風であったが、13 時過ぎまで陸上待機後に出艇し、ラウンドロビン 3 の残り 3 フライトを実施した。
- ・ フォーマットは、当初はラウンドロビン 1~4(1 フライトにつき 2 マッチ)と、ラウンドロビンの上位チームによる、ファイナル及び 3 位決定戦(ベストオブ 5、ベストオブ 3)が予定されていたが、最終日のラウンドロビン 3 完了時点で SI の規定時刻である 15 時となったため、ファイナル及び 3 位決定戦はキャンセルされた。
- ・ レースコミッティーは、インターナショナルレースオフィサーでありレース委員長を務めた Mahamed Afendy 氏、ナショナルレースオフィサーの Sameer Showaiter 氏及び Ebrahim Showaier 氏を中心に、地元の運営スタッフが各運営ボートに配置され、風が弱く振れ幅も大きかった初日・2 日目から強風の最終日まで、海上では公平かつ手際よくレースが運営されていた。
- ・ アンパイアはインターナショナルアンパイアの Neven Baran 氏、Michael O'connar 氏、Piero Occhetto 氏、ナショナルアンパイアの Issa Albusmit 氏、Mehdi Chaabane 氏の 5 名で構成された。今大会では試験的にマッチレース・テストルールが適用されており、テストルールを含め、アンパイア陣によるクリニック(座学及び 22 日海上練習)が実施された。
- ・ 運営ボートは本部船、マークボート 1 艇、選手の乗り替え用ボート 1 艇、ジュリーボート 4 艇の計 7 艇で行われた。

6. レース海面、コース

レース海面は、バーレーンと対岸のサウジアラビアに挟まれたペルシャ湾、バーレーンセーリングクラブの目の前の海面を使用した。海水浴ビーチが近いこともあり、岸壁よりレース観戦している人も散見された。レースコースは、ソーセージコース(スタート・上・下・上・フィニッシュ)で、1 フライトの時間がおよそ 25 分程度で完了するレグの長さで設定された。水深が浅いため、風向のシフトに合わせて、容易にマークを打ち替えていた。

7. 規則

RRS の付則 C を含む規則に基づき行われた。

クラスルールは適用されず、帆走指示書にて記載された競技艇取り扱い規則が適用された。

このほか、2015 年より試験的に施行されているマッチレース・テストルールが適用された(詳細は別途添付)。

8. レース結果

最終成績は以下の通りであった。

この結果、優勝した日本チームには本年の『ISAF Nations Cup Grand Final』の出場権利が与えられた。

優勝	日本
2 位	バーレーン 1
3 位	バーレーン 2

4位	パキスタン
5位	マレーシア

9. 参加費用

大会エントリー費 500 ユーロ、ダメージデポジット 250 ユーロ(ノーケースの場合は返金)を現地受付時に支払った。宿泊は、クラブ内の宿舎を1泊5名につき212米ドルで利用した。空港からの送迎や食事、セレモニー参加費が含まれた。

10. レース内容

日本チームは、ラウンドロビン1~3を合わせて12戦12勝であった。初日午後はバーレーン側から12ノット程度の比較的安定した東風が吹くなか、バーレーン両チームと対戦し、スタートからリードする形で相手をカバーし2勝を挙げた。2日目は風待ち後の11時過ぎ、6~10ノットの軽風でレースは行われた。こちらが相手をコントロールする形でスタートするレースが多かったものの、クルーウェイトが上限の350kg近くあるためかボートスピードにアドバンテージはなく、苦しい場面もあったが、ブローを見極めて有利サイドに展開することで相手をリードできた。バーレーン1にスタートで先行されたレースでは、回航のクルー動作の正確さ、素早さを生かして差を縮め、ダウンウインドレグで相手を風上側からセールオーバーして逆転した。

2日目夕方から強風が続き、3日目はレースキャンセル、最終日のレースではスピンの使用が禁止された。私達は1レース目、本大会1番のライバルのバーレーンと対戦し、スターボエントリーの私達が相手をコントロールする形でペナルティーを与えるが、再度相手を牽制している時に近づき過ぎてクリアスターンから相手に接触してしまいペナルティーを取り返される。しかし、その後に落ち着いて再び相手をコントロールするポジションに自艇を置くことができ、コントロールを失った相手艇に対して風上・風下のルール違反によりペナルティーを与えて、先行する形でスタートした。強風ではアップウインドのボートスピードは私達の方が優位であり、差を広げて危なげなく勝利した。

2レース目のパキスタン戦では、お互いが主導権を握ろうとギリギリの攻防を繰り広げたが、スタート時に相手の上側でスタートし、そのままスターボードで抑える形で相手にリードを許すことなくフィニッシュ。

3レース目のマレーシア戦では、ポートエントリーからダイアルアップ後に相手をかわし自由に動けるポジションを確保した。その後はコントロールポジションを許すことなく牽制し、パキスタン戦と同じく相手の上側で先行する形でスタートをしてリードを広げフィニッシュした。

11. その他

〔各国のチーム状況〕

バーレーン1のスキッパーAbdulla選手は、前回アジア地区予選やタイのグレード2マッチレースなどにも出場し、積極的にマッチレース活動を行っている。バーレーン2は地元のエースセラーを中心に組まれたチームであり、マッチレース経験は少ないものの、キールボートレースに十分なセーリング技術を持ち今大会でも3位に入った。バーレーンセーリングクラブではOP級やレーザーラジアル、マッチレースの国際大会を頻繁に開催しており、今大会でもナショナルコーチがアンパイアやテクニカルスタッフとして参加しており、国や協会の支援の下、同国セラーの育成・強化に非常に力を入れている。パキスタンは日本と同じクルー5名での参加であり、今後はモンスーンカップ予選などに出場予定とのこと。マレーシアは今大会唯一の女子チームであるが、スキッパーは2013年ウォーレンジョーンズ・インターナショナル・ユースマッチ(豪・パース)に出場経験があり、今大会でも軽風ではボートスピードにアドバンテージを感じた。大会後、ユース枠でのネーションズカップ・グランドファイナル出場のオファーを受けていた。

〔日本代表としての参戦〕

前回2013年ネーションズカップより日本はオセアニア枠からアジア枠に変更(選択可)され、ウラジオストクで開催されたアジ

ア地区予選ではシエスタチーム(スキッパー坂本選手)が優勝している。今大会はオープンクラスのための開催となり、女子クラスはオセアニア地区予選に組み入れられた模様である。私達は、2015年2月に行われた全日本マッチレース選手権の成績(2位)により、今大会の出場権利を得て参加が決定した。私達が日本代表として今大会に出場するにあたり、JSAFより多大な支援を受けており、また遠征資金確保のためユニホーム販売を行い、多くの方の協力を頂いている。そうした支援や協力がなくては、今大会への出場は到底叶わず、チャレンジの機会を頂いたことに感謝申し上げます。

[ネーションズカップ・グランドファイナルへの挑戦]

今大会の優勝により、アジア予選を突破、グランドファイナルの出場権利を獲得することができた。レース直後は実感が伴わなかったが、日本に帰国後、大会結果を報告した多くの方に喜んで頂き、感無量であった。一方、チームの真価が問われるのはグランドファイナルであり、優勝を目標にチーム一丸となり臨みたい。アジア予選では勝負所や拮抗している場面で勝利することができ、自分達の成長を感じたが、さらにハイレベルな大会で勝つためにはボートスピードやコミュニケーション面に課題があることも認識した。グランドファイナルまでの残り期間2ヶ月、これらの課題をひとつずつ解決していきたい。

ネーションズカップ・グランドファイナルは2015年7月14日から19日までロシア・ウラジオストックで開催予定である。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米カリブ、オセアニア、南米の各地区予選を勝ち抜いたチームから、マッチレース世界王者が決定される。使用艇種はプラトゥー25、過去の遠征でも経験済みの艇であり、世界のトップマッチレーサーと真っ向から勝負したいと思う。

今回こうしたレースに、日本代表として出場する機会を頂き、普通では味わえない緊張感と勝利に対しての喜び、貪欲さを感じることができた。こうした経験を自分達だけで享受するのではなく、後輩セーラーにも伝えていき、今後より良い結果を残せるよう活動していきたい。

過去のISAFネーションズカップ成績 http://www.sailing.org/events/nationscup/past_results.php

〔遠征收支〕

収入

項目	単価	個数	金額	備考
個人負担	96,300	5	481,500	中山、市川、加藤、東野、岡本
JSAFエントリー費ご支援	67,500	1	67,500	JSAF支援金
ユニホーム売上金	5,000	39	195,000	中澤さんご支援により80枚作成(4/30時点売上)
遠征カンパご支援	5,000	1	5,000	
その他	75,138	1	75,138	昨年ユニホーム売上余剰金
合計			824,138	

支出

項目	単価	個数	金額	備考
エントリー	67,500	1	67,500	500ユーロ(チャーター費用込み)
ダメージ修繕費	27,000	1	27,000	50ユーロ(ダメージデポジット250ユーロから差引)
航空券	108,900	5	544,500	各自購入
宿泊	26,500	4	106,000	クラブハウス: 212USD(5名1泊)×4泊(食事・送迎付き)
保険	7,400	5	37,000	各自購入
WiFiルーターレンタル	13,716	1	13,716	6日間
その他	9,241	1	9,241	嶺地土器等
合計			804,957	

収支

19,181 円



大会が行われたバーレーンセーリングクラブ、空港から車で約1時間



レース艇はよく整備が行き届き、セールも新品



オープニングセレモニーの集合写真、アンパイアと大会スタッフ



パキスタンチームと陸上待機中



表彰式には駐バーレーン日本大使も参加
プレゼンターはサッカー AFC 会長 Shaikh Salman 氏



皆様のご支援に感謝申し上げます。
ボーイズ一同、グランドファイナルに向けて一層真摯に取り組む所存です。
今後とも応援の程、よろしくお願い致します。